

みどりの杜俳句会

秋風や木の間隠れに青き空

佐山けさ子

山澄みて木立の間空青し

高橋 きみ

秋日和ホール明るくぬり絵かな

安田 久子

まゆみの実玄関先に色づきぬ

飯野 トヨ

裏畑の畦道左右に萩の花

河西カナメ

玄関の灯にかまさりの飛んで

田村 好子

新米のつや粘りあり塩むすび

馬場 芳

石垣に隙なくしだれ萩の花

飯野はつ志

夕暮の往還鹿の子横断す

梅沢きくえ

雨風の一夜に鶏頭倒れけり

高橋 ツ子

古民家の縁に十五夜すまんじゆう

西 ツル

断雲の夕日に染まる秋思かな

荒川句似啓

こほろぎに目覚め夜更を本ひらく

吉田 愛子

秋晴れや縁にお茶入れ一休み

山崎 才子

萩の花風にふられて地へ向けり

鈴木 啓子

山裾の月夜の庭や猪の影

関口 真吾

黄に熟るる稲田の中やトラクター

金子 圭輔

うろこ雲仕事終りの息ついて

谷内 真里

芋煮鍋湯気立ち鶯の高く舞ふ

岩崎 真人

秋の蟬草に動かず日の暮るる

野口利江子

十五夜のまんじゆう供へ山の家

関口 侑子

玉入れや網に届かず子に当る

大竹 祐也

山頂の電線弛み空高し

土屋 厚子

無花果の熟し薄皮裂けにけり

初雁 功子

箕に山の初物揃へ月祀る

山田 美子

白石短歌会

賞味期限順にならべて娘は帰る

やはり我より子は先をゆく

時は今山栗の実の落つる頃

渡邊美枝子

山のきのこの山盛りならむに

坂本 美江

義母の背を見つゝ暮して五十余年

姑は百九齡嫁は老いたり

白石 礼子

丹精の作物荒す獣たち

愚痴とぼしつゝ又苗植える

渡邊阿里子



人権シリーズ

『生まれてきたわけ』

「私が生まれてきたわけは」で始まる「いのちの理由」は、さだまさしの楽曲である。以前全校朝会で児童に歌詞を紹介し、また昨年の小鹿野町の人権フェスティバルでも講師の方に歌っていただき、その歌詞から命の尊さへの思いを新たにしたい。

昨今報道される命に関わる体罰や虐待、いじめの事件はなぜ繰り返されるのであるのか。憲法で保障される基本的人権がいとまたやすく侵害されている現状に、言葉がない。一般的に体罰（主に学校）や虐待（主に家庭）は、子どもに暴力等で恐怖心を与えて支配しようとする大人の自分の感情に任せた行動であり、しつけは子どもの内面に働きかけ、自律心や考える力を伸ばし、社会のルールを自ら身に付けていくことと言われる。しつけは、体罰や虐待とは全く別で、虐待をしつけのためとする言い訳はあり得ない。

いじめ問題も、社会の中で守るべき基本的ルール認識の希薄化、子どもの生活の中で多様な人間関係や人との付き合い方の習得機会の減少などが一つの要因として根底にある。他人を傷つけることを避けようとする心の働きは、傷ついた人の痛み、その家族の悲しみまで想像でき、自分の痛みとして感じるところからくると考える。そのような心を持つ子どもは、親や周りの大人たちが小さな命を慈しみ、身内や隣近所の不幸に心を痛め、各地の災害に悲しみや同情を示す姿などを見て、学び育つのではないだろうか。

かけがえない自他の命を尊重する社会を願い、今後も教育委員の立場で児童生徒の育成に協力していきたい。子どもたちの未来のために。

教育委員

江原 誠一